

私の大好きな「名島橋」は7つのアーチを持つ石橋で全長204m全幅24mです。欄干は御影石で張られて、白いどっしり感があります。

飛行機で福岡に帰ってくる時、上空から名島橋を探して見つかったら、ほっとしたものです。上空から見ても、それはやっぱり大きな大きな橋です。歴史を感じる雄姿は九州一の橋だと思います。しかし、私が不安だったのは名島橋がいつの日か壊される運命なんだろうかと、内心穏やかでなかったからです。

それはまちなかで見かける、新しくなっていて橋の架け換え、それはそれでいいと思う。まちがおしゃれになつていくのだから。でも、「博多もんは新しもん好きだから」といわれ古いものが壊されていくし。「もしかしたら……」毎朝夕に名島橋を渡るたびに老朽化しつつあるように見える橋、欄干のガタツキを必死でチエックしている、嫌な私の目。歩道はアスファルトの補修があちこち目立ち、白い味気ないガードレールは傷が入ったり、へこんだりの状態。そして3号線のこの交通量では「もしかしたら……」1994年2月の朝「60年前、巨大橋なぜ必要だった？」こんな見出しを見て、背筋がゾッとするような喜びを感じた。「助かった……」少しオーバーな表現かもしれないが、でも私の不安がふつとびました。

名島橋の還暦を祝って照明灯とガードレールと歩道が当時をしのばせるレトロ調に化粧直しされました。また毎年「名島橋サンクスフェア」があり地域住民から愛される名島橋になりました。今年は赤いえんぴ服を着せてもらっていました。これでひと安心です。

そして今、思っているのが「60年前、巨大橋がなぜ必要だった」このことです。荷馬車の時代にこんな大きな橋がなぜ……

本当にたたくさんの謎が隠されている橋なんです。

## 名島橋に魅せられて

この「名島橋」に、わたしのまちの景観賞をプレゼントしてやってください。

重松珠子（東区千早）

「欄干のガタツキを必死でチエックしている私」これは愛着があるからこそその行為であり、橋に秘められた歴史のロマンを知った筆者はこの巨大橋に対するさらなる誇りを強く感じたのだろう。市民ならではの愛情あふれたエッセーとなっている。

（選考委員 河地洋子）

